

# 「本をつくるワーキング」

対象： AAF 10周年本の編集作業について積極的に参加してみたい方  
アート・プロジェクトの意義の伝え方に興味のある方、その編集を学びたい方

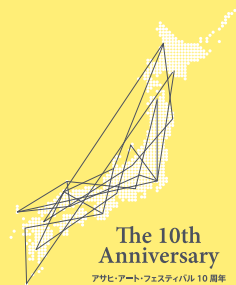
参加費： 無料（事前申込制）

参加条件：全4回通して参加いただける方

お問合せ・お申込み：下記連絡先まで、お電話またはメールでご連絡ください。

アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会 事務局

Tel. 03-3353-6866 E-mail : joho@asahi-artfes.net



10周年を迎えた「アサヒ・アート・フェスティバル（AAF）」。

AAF に蓄積された数百の多様な事例を題材に、

みんなで整理し、みんなで考え、みんなで編集し、みんなで『本』をつくります。

アート・プロジェクトが生み出してきたものは何か、

そしてそれは今後の我々の社会・生活にどういった価値を生み出していくのか。

そのことをいかに伝えていくのか。

次の時代を切り開き、生き抜くために、みんなで知恵を結集して『本』を一緒につくりませんか?!

## AAF 学校 2011

アサヒ・アート・フェスティバル Webサイト

[www.asahi-artfes.net](http://www.asahi-artfes.net)

<http://www.facebook.com/AsahiArtFestival>

第1回：12月4日（日）15：00～18：00

## 記録・記憶を整理する作法（トーク・ワーキング）

ゲスト：入江拓也（SETENV）、影山裕樹（編集者、ライター）

会場：現代美術製作所（東京都墨田区墨田1-15-3）

AAF10年間の様々なプロジェクトについて、その情報をどう整理して記録していくか、また情報の送り手として何に留意すべきか、議論しながら、データベース構築の在り方を検討します。

第2回：12月11日（日）15:00～18:00

## アート・プロジェクトのポジショニングを考える（トーク・ディスカッション）

ゲスト：萩原康子（企業メセナ協議会）、田野智子（ハート・アート・おかやま）

会場：現代美術製作所（東京都墨田区墨田1-15-3）

AAFが始まった2001年、それまでも様々な地域とアートをつなぐプロジェクトが展開されていました。TAM（トヨタ・アートマネジメント講座）、ドキュメント2000など、今までの地域とアートのつながり方、企業の支援の仕方はどのように変わってきているのでしょうか。そして現在、地域の人々はどういう思いでアート・プロジェクトに取り組んでいるのか。アート・プロジェクトの社会的意義のこれまでとこれからについてディスカッションします。

第3回：1月14日（土）+15日（日）15:00～18:00

## コンセプトを分解する（ディスカッション・ワーキング）

ゲスト：入江拓也（SETENV）、藤浩志（美術作家）

会場：HIGURE 17-15 cas contemporary art studio（東京都荒川区西日暮里3-17-15）

AAFの参加団体・企画はおおよそ300。その企画をよみときながら、新しい切り口や見方を発見していきます。個別のプロジェクトをタグづけする作業の中で、様々なアート・プロジェクトのエッセンスを探るワークショップです。

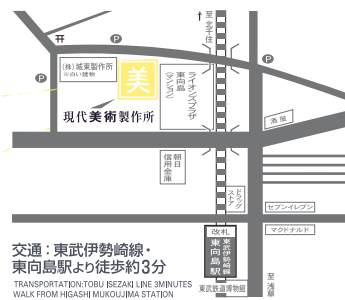
第4回：1月29日（日）15：00～18：00

## ものがたりを読みとる（トーク・ワーキング）

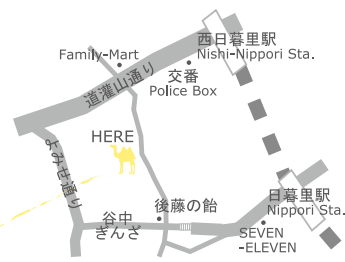
ゲスト：西村佳哲（プランニング・ディレクター、働き方研究家）、影山裕樹（編集者、ライター）

会場：3331 Arts Chiyoda（東京都千代田区外神田6丁目11-14）

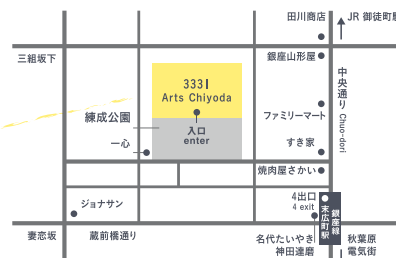
AAFの活動の中では、ささやかながらも深く人々の心にささるエピソードが沢山あります。アートに関わることで生まれた様々な価値が積み重なることで、新しい社会や生活の豊かさを浮かびあがらせることができるのか。記録の中では、なかなか言語化できない、拾いきれないものをどう読み取って表現し伝えていくかを、みなさんと検討していきます。



交通：東武伊勢崎線・東向島駅より徒歩約3分  
TRANSPORTATION: TOBU SEESAKI LINE 3MINUTES WALK FROM HIGASHI MUKOUJIMA STATION



JR山手線・京成線日暮里駅北口改札西口徒歩8分  
JR山手線・東京メトロ千代田線西日暮里駅徒歩6分



東京メトロ銀座線末広町駅4番出口より徒歩1分  
東京メトロ千代田線湯島駅6番出口より徒歩3分  
JR御徒町駅南口より徒歩7分  
JR秋葉原駅電気街口より徒歩8分



入江拓也（SETENV）

1978年生まれ。株式会社SETENV代表取締役。美術・大学・企業メセナなどを中心とした様々なウェブサイトを作成。また、音楽・美術を中心としたプロジェクトの企画・制作（制作協力）なども行う。手掛けたウェブサイトには、ネットTAM<<http://www.nettam.jp/>>など。<http://www.setenv.net/>



影山裕樹（編集者、ライター）

1982年生まれ。雑誌「STUDIO VOICE」を経てフィルムアート社に入社。ヨコハマ国際映像祭2009、「ボイスがいた8日間」展（水戸芸術館現代美術センター）等の展覧会カタログ、『野外フェスのつくり方』（MESSAGE編集部編）、「じぶんを切りひらくアート」（高橋瑞木ほか編）等カルチャー書を編集し退社。その後は雑誌・ウェブ媒体で原稿執筆、書籍の企画・編集など。現在は「ハバ・タラフマラ30周年」本を準備中。



田野智子（NPO法人ハート・アート・おかやま代表）

愛媛県松山市生まれ。小学校教諭を経て、岡山県内の障害者や高齢者施設、学校などで、芸術文化活動を企画し展開している。2004年より「創造性と他者との関係性」をテーマに、障害者とアーティストによるアートリンク・プロジェクトを展開。一方で瀬戸内笠岡諸島で世代や分野を超えた人々の関係性から生まれる新しい価値を地域へ還元しようとしている。



萩原康子（公益社団法人企業メセナ協議会 プログラム・ディレクター）

複数のアーティスト・イン・レジデンス事業の運営・調査等に関わった後、INAX文化推進部に所属。1996年よりキュレーター・オフィスにて美術展の企画運営、美術館設立構想等に携わる。2001年、企業メセナ協議会に入局。顕彰事業「メセナアワード」、機関誌「メセナノート」等を担当するほか、コーディネート事業としてアサヒビール芸術文化財団主催の美術展シリーズを手掛ける。



藤浩志（美術作家）

京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、ハバアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室を設立。「ヤセ犬の散歩」「お米のカエル物語」「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「藤島八十郎をつくる」等、各地で対話と地域実験の場を作る美術類のデモンストレーションを実践。<http://geco.jp>



西村佳哲（リビングワールド代表、プランニング・ディレクター、働き方研究家）

1964年東京生まれ。武蔵野美術大学卒。つくる・書く・教える、三種類の仕事。建築分野を経て、ウェブサイトやミュージアム展示物、公共空間のメディアづくりなど、各種デザインプロジェクトの企画・制作ディレクションを重ねる。多摩美術大学、京都工芸繊維大学 非常勤講師。著書に『自分の仕事をつくる』（晶文社/ちくま文庫）、『自分をいかして生きる』（ちくま文庫）など。

※プログラムの内容が一部変更になる場合がございます。

- ・全講座受講可能な方を優先します。・本学校の出版物の著作権は、アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会に帰属します。
- ・AAF学校は実践的学びの場です。学校で発生するグループワーク、アイデア出し等は、全てボランティア作業となります。
- ・受講生の方に原稿をお願いする場合は、署名原稿となります。・出版物の巻末に編集に参加された皆様のお名前を掲載します。